

ライブストリーミングを楽しむ(23)  
-114回 TWILIGHT CONCERT-

1. 始めに

114回 TWILIGHT CONCERT と称する無観客ライブの公開の案内があり、視聴してみました。

<https://pr.ijj.ad.jp/live/>

2. ライブストリーミング情報入手源と PC および使用機器環境

114回 TWILIGHT CONCERT は次のようなプログラムです。

ケルン WDR 交響楽団 (旧ケルン放響) の首席チェロ奏者のシェヴリンが春の夜にお届けする、珠玉の名品集

曲目：

シューマン：幻想小曲集 op.73

フォーレ：夢のあとに

グリーグ：チェロ・ソナタ イ短調 op.36

フォーレ：シチリアーノ

ピアソラ：ル・グラン・タンゴ

演奏：

オーレン・シェヴリン (チェロ)

芦川真理子 (ピアノ)

会場：

三井住友銀行東館ライジング・スクエア 1 階 アース・ガーデン

時間：

18時30分 ~ 19時30分

[114TWILGHTCONCERT プログラム](#)



### 3. ライブストリーミングの経過

**TWILIGHT CONCERT** は東京大手町オフィス街へ 「音楽のおくりもの」と題して大手町の三井住友銀行ロビーで、2008年より毎月1回「ゆうべの音楽」をテーマにしたコンサートですが、今回も無観客で配信のみでの参加可能です。

サイトには次のような解説がありました。

「皆様、こんばんは。真冬に比べるとぐっと日が長くなりましたね。まだ開演時間になってもお外は真っ暗ですが、次回位から、徐々にガラス越しの光が明るくなり、緑色の街路樹が目飛び込んで来て季節の移り変わりを楽しめることになるでしょう。それにしても世間は相変わらず、、、以前のようにお客さんが入れるようになるといいですね。暖かく成りきらないこの季節、皆さん体調管理は気をつけてください。

本日はチェロにオーレン・シェヴリン、ピアノに芦川真理子を迎えて、ロマン派からピアソラまで、耳にとっても優しいとっても万人向けなウエル・バランス・プログラムをお送りいたします

ロベルト・シューマン(1810-1856): 幻想小曲集 op.73

1. **Zart und mit Ausdruck** 「静かに、感情を込めて」

2. **Lebhaft, leicht** 「活発に、軽やかに」

3. **Rasch und mit Feuer** 「急速に、燃えるように」

トワイライト・コンサートの定番メニュー。難易度もそこそこ高く、演奏時間も約10分なので1時間演奏会にはもってこいの曲。もともとはクラリネットとピアノに書かれた曲で、他にも音域が比較的近いヴィオラあたりで演奏されたりする。前回は確かトンドゥル(オーボエ)さんがトワイライトに出演された時に組み込んでいたような記憶が、、、

一応、いつもとは違う事を書こうと改めて聞き直しているのですが中・低音域で楽器を「鳴かす」という点でシューマンはずば抜けてますよね。個人的には高音域の

ヴァイオリン・ソナタよりこのあたり音域の作品の方が好きです。第1楽章は勿論なのですが第3楽章もめちゃくちゃ華やかなのに時折「枯れた音楽のエッセンス(いい意味ですよ、人間だって産まれて色々経験して年齢を重ねていくじゃないですか)」を感じ得ずにはられない部分があります。

ガブリエル・フォーレ(1845-1924): 夢のあとに

原曲は歌曲集「3つの歌 作品7」の第1曲目で器楽でも(特に弦楽器)演奏されることが多い。パリの音楽院の同僚であったロマン・ビシューヌがイタリアのトスカナ地方の詩いフランス語訳した「夢の中の美しい女性を返しておくれ」というような内容にフォーレが曲を付けた。当時失恋のどん底にいたフォーレの感情と相まって最初の和音から最後までせつなく真っ暗路線がお好きな方、、、どうぞ。

エドヴァルド・グリーグ(1843-1907): チェロ・ソナタ イ短調 op.36

今日のメインディッシュ。コンチェルトかよってくらいチェロもピアノも大変。

I. Allegro agitato

II. Andante molto tranquillo

III. Allegro e molto e marcato

重厚な第1楽章、北歐的要素満載の壮大感溢れる第2楽章、舞曲風で華やかな第3楽章という構成でまんまピアノ協奏曲です。調性も同じだし、、、ラフマニノフのチェロ・ソナタのように楽譜を見ただけで目がチカチカすると感じとはまた別でとにかくオクターブによる跳躍が多い。あとめちゃくちゃ速い中チェロとシンコペーションで絡む場面が何回か出てくるので弾いてる側はきっとスリル満点なことでしょう。まあそういうところはガシッと嵌れば格好いいんですけどね。

グリーグの兄、ヨーンのために作曲された曲で、お兄様、かなりの腕前だったらしいので難しい、、、、、、、、、、はず。

ガブリエル・フォーレ(1845-1924): シチリアーノ

シチリアーノ(時には女性名詞であるシチリアーナと表記される)はルネサンス期からバロック期にはやった8分の6拍子のゆったりとした舞曲。フルートで演奏される機会が多く、多分皆さんもどこかで耳にしたことはあるはず。原曲はチェロとピアノのために書かれている。

アストル・ピアソラ(1921-1992): ル・グラン・タンゴ

チェロの巨匠ロストロポーヴィチのために書かれた楽曲。当然「踊るタンゴ」ではなくいわゆる「聴くタンゴ」。ピアソラXタンゴで格好の良い要素しかないというお洒落な曲。10分以上ある大曲だが骨の髄までタンゴを知り尽くしたピアソラが緩急自在にリズム、メロディを操る。クレーメルがヴァイオリンで録音し人気が発、一気に弦楽器のモダンレパートリーの仲間入りをした。

曲目解説: 田口寛

米国にてマネス音楽院音楽修士号、メリーランド州立大学にて音楽博士号取得。

ピアノ専攻。」



**TuPhase** の導入により一層ライブ感が増し、シェヴリンのチェロの音色がリアルで冴えていました。

一番の大曲であるグリーグのチェロ・ソナタは、チェロもピアノも無観客演奏とは言え、大変な熱演で迫力満点でした。

#### 4. まとめ

バランスアナログアキュライザーが加わったことにより、また今回からは、ボリューム調整と切り替えが、P&G フェーダーから FIDELIX の [TruPhase](#) に替わったこ

とにより、音質はこれまでの限界を超えた感があり、ライブ感は十分出ています。  
演奏会開催ができない間、こういった企画で演奏家と音楽愛好家を繋ぐ手段として  
あってもいいと思われます。

以上